

調査報告概要表(村長の家認知症対応型共同生活介護事業所)

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
農村地域の中心集落に位置し、小学校の真向かいに村長の住んでいた民家を改造し、ネーミングも「村長の家」と、懐かしい名前のホームである。地域の方々が改装工事に積極的に関わってできたホームであるため、地域住民とはまるで親戚関係のような交流がなされている。職員のチームワークもよく、少人数の特長を活かし、肌理(きめ)細やかに、一人ひとりにあったケアを心がけている。入居者は職員とともに、庭にできる梅や桃、柿、栗などの収穫や、猫、ウサギと戯れるなど、慣れ親しんだごく当たり前の暮らしをしている。併設された学童保育所(児童クラブ)に放課後駆け寄ってくる子供たちをゆったりと眺めながら待ち、一緒に工作や囲碁を楽しんでいる。家族や地域の方々との密度の濃い関わりをしているホームである。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I 運営理念	運営理念を重要事項説明書に明示されることが望まれる。
II 生活空間づくり	特に改善点は無い。(現状維持、そして更なる充実が期待される。)
III ケアサービス	特に改善点は無い。(現状維持、そして更なる充実が期待される。)
IV 運営体制	特に改善点は無い。(現状維持、そして更なる充実が期待される。)

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	3	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	4	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	7	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	8	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10	
⑦ 生活支援	2項目	2	
⑧ 医療・健康支援	9項目	9	
⑨ 地域生活	1項目	1	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	10	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	4	